

1 学習指導の工夫とその効果及び課題

(1) 視覚化を図った教具の工夫と効果

生徒が活動内容を理解し、見通しをもって活動に取り組めるよう視覚的に内容を伝えた。

表1は視覚化した教具の工夫と効果をまとめたものである。

表1 視覚化した教具の工夫と効果

教具	工夫と効果
<p>ダンスの内容動画</p> 	<p>ダンスの活動内容を言葉、数字、イラストで提示したものを大型テレビに映し、場面ごとに変化する動画で提示した。取り組む活動内容、次の活動内容が示されることで、スムーズに全体ダンスに取り組むことができた。</p>
<p>活動位置の提示</p> 	<p>生徒が自分の活動する場所が分かるように、体育館の床に二色のラインテープをクラスごとに引いて、目印とした。活動場所が明確になることで、不安感をもたず落ち着いて活動することができた。また、移動もスムーズに行えた。</p>
<p>大型テレビ タブレット</p> 	<p>大型テレビにタブレットを接続し、本時の目標や、ダンスマスターの行い方についての説明を行った。本時のねらいを生徒と共有することができ、生徒、教員共に明確な目標をもって授業に取り組むことができた。</p>
<p>活動内容の理解</p> 	<p>活動内容の理解と見通しがもてるように、カードに写真を載せ表記した。技表から自分たちの取り組みたい技を選び、技カードの順番を基に技を完成させることはすぐに理解された。取組の始めと終わりが明記されていることで、見通しがもてたと考えられる。混乱する様子はなく生徒全員が活動に取り組むことができた。</p>

(2) 学習指導の工夫とその効果及び課題

授業のねらいを教師と生徒が共有し、学習目標が達成されるよう学習指導を工夫した。

表2は学習指導の工夫とその効果及び課題についてまとめたものである。

表2 学習指導の工夫とその効果及び課題

手立て		内容
対話的な学びの充実	工夫とその効果	「確実にできる」「頑張ればできる」共通課題を設定した。共通課題が共有されることで、取り組みたい技を仲間と話し合う、カードを指差す、うなずいたりして決める、技を完成させるためにどうすればよいかを話し合う、力をかけ合い感覚の交流を行う、タイミングを合わせるためにかけ声をかける、など課題解決に向け対話をする姿が多く見られた。
	課題	ペアにより対話数に変動が見られた。対話を充実させるためにグルーピングが重要である。また、初めての取組で教員の指導にばらつきがあった。すぐに課題を解決させようとするのではなく、生徒たちの対話を引き出す指導を統一させたい。
主体的な学びに向かう姿	工夫とその効果	「確実にできる」「頑張ればできる」共通課題を設定した。課題の内容の理解を見通しがもてるよう視覚化して提示した。技を完成させるために「せーの」とかけ声を発する回数が増え、技に取り組む回数が増えた。自分が取り組みたい技だけでなく、仲間が取り組める技を考えたり、取り組んでいる仲間をサポートしたり、休憩時間に他のクラスの仲間と技に取り組んだりと主体的に活動する姿が見られた。
	課題	生徒が活動に対し「できた!」「これでいいんだ!」と分かる手立てが不足していた。達成感を味わえる教具を工夫したい。
言語合図	工夫とその効果	技に取り組む前は、「2人技!そーれ」と言ってから技に取り組む。取り組むために8呼間を声に出して数える、技を完成させる時に「せーの!は一い!」と言って技を完成させる、とそれぞれにかけ声を決めた。生徒に分かりやすい簡単な言葉を使うことで、かけ声を手掛かりに、活動に取り組むきっかけになったと考えられる。全体ダンスに取り組んだ全ての生徒が、音楽が流れる中、かけ声に合わせて2人技に取り組み、かけ声に合わせて技を完成させることができた。
	課題	最初は技の完成を焦らないよう8秒間の設定をせず、笛の合図だけで取り組んだが、完成までの時間が曖昧になり分かりづらかった。最初から全ての動きに言葉による合図を決めておくとより分かりやすい。

手立て		内容
グループ編成について	工夫とその効果	グループの中で心を開いて動けるよう、同じクラスの中でグループを編成することとした。2人技、3人技では、仲間のことを考えて技を選んだり、仲間ができるようにサポートしたりと、相手の様子を知っているからこそできる行動が見られた。また、普段のクラスでは仲間と関わりたいが関わり方が分からない生徒が、共通の課題を設定することで、課題解決に向けて適切な関わりができるようになった。
	課題	休み時間に他クラスの生徒と取り組む姿が見られた。同じクラスでの活動に慣れたら他クラスの生徒と関わる時間を設定したい。
指導内容の共通理解	工夫とその効果	鶴見養護学校高等部第2学年では、体育の授業を16名の教員で指導を行っている。教員一人ひとりが指導内容と指導方法を理解して授業に臨むことができるようにするため、前もって授業案を配付し、さらに当日に授業のねらいや注意点を確認した。授業のねらいや注意点を教員同士で共通理解を図ることで、生徒へ一貫性のある指導が行えるようになった。
	課題	授業のねらいは伝わったが、課題を解決させる指導法や対話学習の指導法など、細かな指導法が共有されなかった。指導法についても授業案に載せていく。

2 授業全体を振り返って

検証授業

検証授業から得られたデータを基に、本研究以外に授業全体で分かったことを振り返る。

(1) ダンスの特性に触れることができたか

ダンスは、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間と共に感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

参考：「高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編」文部科学省、平成 21 年 12 月

そこで本研究では生徒の実態を踏まえ、「仲間とのコミュニケーションを豊かにする」「仲間と共に自己を表現することに楽しさや喜びを味わうこと」をダンスの特性とする。

表 3 ダンスの特性

仲間とのコミュニケーションを豊かにする
仲間と共に自己を表現することに楽しさや喜びを味わうこと

ア 仲間とリズムに合わせて踊ることができたか

図 1 は 15 時間目の全体ダンスで、かけ声に合わせて 2 人技、3 人技を完成させた生徒の数を映像分析し示したものである。全体ダンスに参加した 32 人中 2 人技は 30 名、3 人技は 29 名の生徒が仲間と技を完成させることができた。また、教員の支援を受けることなく、生徒達だけで技を完成させることができたのが 2 人技は 23 名、3 人技は 24 名と約 7 割いた。

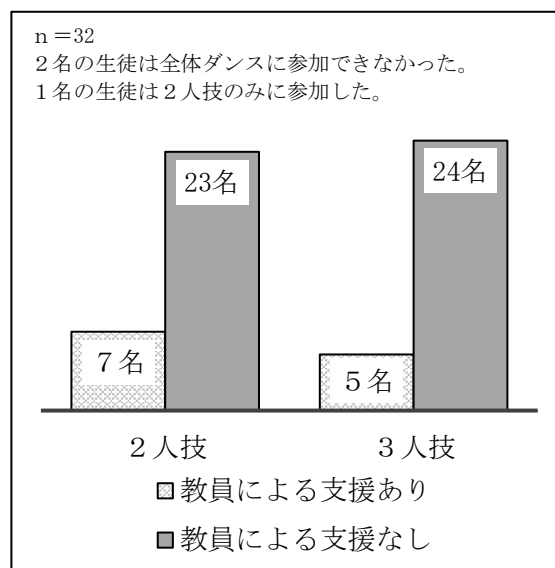


図 1 全体ダンスでかけ声に合わせて 2 人技、3 人技を完成させた生徒の数 (15 時間目) (n = 32)

イ 仲間と踊ることが楽しかったか

図2～図5は言葉による受け答えが可能な生徒13名に実施した事後アンケートの結果である。

図2は、事後アンケート「友達と一緒に踊ることは楽しかったですか」の回答（n=13）である。「楽しかった」が11名、「少し楽しかった」が2名であり、13名全員が肯定的な回答であった。

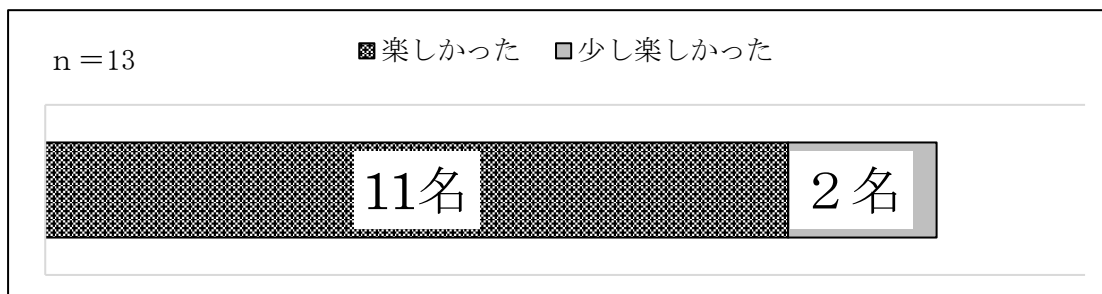


図2 事後アンケート「友達と一緒に踊ることは楽しかったですか」の回答

図3は、事後アンケート「友達と2人技、3人技を完成させることは楽しかったですか」の回答（n=13）である。「楽しかった」が11名、「少し楽しかった」が2名であり、13名全員が肯定的な回答であった。



図3 事後アンケート「友達と一緒に踊ることは楽しかったですか」の回答

図4は、事後アンケート「ダンスの授業は楽しかったですか」の回答（n=13）である。「楽しかった」が10名、「少し楽しかった」が3名であり、13名全員が肯定的な回答であった。

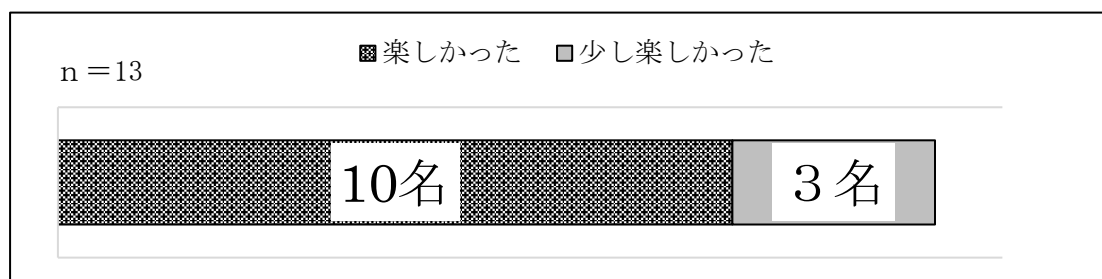


図4 事後アンケート「ダンスの授業は楽しかったですか」の回答

図5は、教員が毎時間生徒の様子を記入する見取り表「ダンスの授業は楽しそうでしたか」の回答である。ほぼ毎回8割以上が「楽しそうだった」「少し楽しそうだった」と肯定的な回答であった。

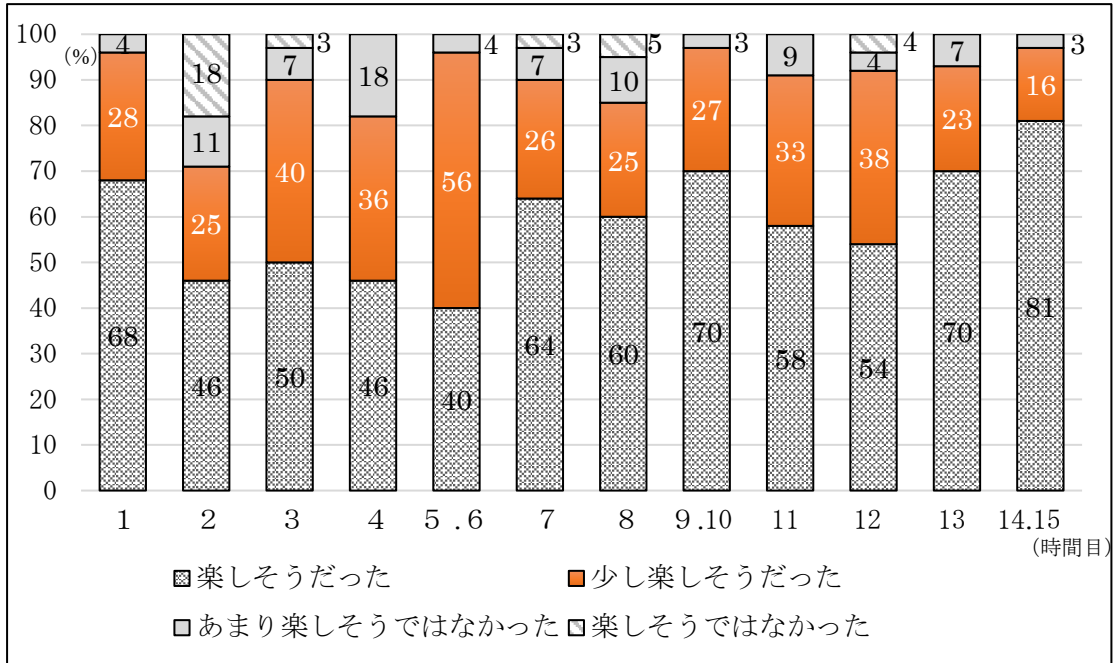


図5 見取り表「ダンスの授業は楽しそうでしたか」の回答

<考察>

(1) ダンスの特性に触れることができたか

ア 仲間とリズムに合わせて踊ることができたか

検証授業の全体ダンスでは、図1の結果から、2人技、3人技をほぼ全ての生徒が音楽と抑揚のあるかけ声に合わせて仲間と技を完成させることができたことが分かる。また、約7割の生徒が教員の支援を受けることなく、生徒達だけで技を完成させることができたことから、仲間とリズムに合わせて踊ることができたと考えられる。

イ 仲間と踊ることは楽しかったか

「友達と一緒に踊ることは楽しかったですか」「友達と2人技、3人技を完成させることは楽しかったかですか」については、事後アンケートを行った生徒13名全員が肯定的な回答をしており、仲間と一緒に踊る楽しさや喜びを味わっていたことが分かる。「ダンスの授業は楽しそうでしたか」については、8割以上の生徒が楽しそうな様子でダンスの授業に参加していたと推察できる。

これらのことから、「仲間とのコミュニケーションを豊かにする」「仲間と共に自己を表現することに楽しさや喜びを味わうこと」というダンスの特性に触れることができたと考えられる。

(2) 生徒の様子の変化

表4は、見取り表に記入された生徒の様子の変化である。共通の課題が設定されたことや、仲間と対話を通して課題を解決する過程において、仲間と関わろうとするようになったり、適切に関われるようになった様子が記入されていた。

表4 見取り表に記入された生徒の様子の変化

生徒	様子の変化
ア	普段はなかなかペアの友達の誘いには乗らないが、ダンスのときには声かけを聞いている。
イ	「自分が」という気持ちが強いが、「ペアと一緒に」という意識がもてていた。
ウ	何をどのように友達に話しかければよいか分からず、適切に関われなかったが、共に技を作り上げる課題が設定されたことで、共通の課題解決に向けて友達の表情をうかがったり、話しかけたり、映像を見て喜びを共感するなど適切に関わることができた。
エ	ペアの生徒からの促しも、ダンスの時間は快く応じることができる。
オ	共通の目標をもつことで、適切な関わりが増えた。 (ふざけたり、大きな声を出して注目を集めるという不適切な関わりが減った。) 課題達成のための友達からのアドバイスを受け入れ、感謝もできるようになった。